

東京都小学校国語教育研究会研究主題

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習 —身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める—

話すこと・聞くこと部 研究主題

求めて関わり、自他の学びの充実を目指す話し合い

第6学年国語科学習指導案

単元名 五大小を〇〇し隊！ ～互いの考えを大切に話し合おう～

日 時：令和7年2月21日(金)5校時

児 童：江東区立第五大島小学校 第6学年2組 30名

担 任：江東区立第五大島小学校 教諭 柴沼 直哉

指導者：葛飾区立中青戸小学校 主任教諭 堀田 美里

1 単元の目標

- 話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができる。〔知識及び技能〕(1)イ
- 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)オ
- 言葉がもつよさを認識するとともに、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。 ((1)イ)	①「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。 (A(1)オ)	①積極的に互いの立場や意図を明確にして伝え合い、考えを広げたりまとめたりしながら、学習の見通しをもち、相手の考えを大切に話し合おうとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

本学級では、教科書単元「インタビューをして、自分の考えと比べながら聞こう」の学習において、インタビューとして何を尋ねるのか、答えてくれる相手と自分の考えとの共通点や相違点を整理する学習を行っている。また、11月には同じく教科書単元の「目的や条件に応じて話し合おう」の学習において、目的や条件を意識しながら、学級全体で話し合いの活動をしている。その際には、付箋などを動かしながら話し合いを進め、自分たちの意見や考えを整理した。

書くことに対しては、少し抵抗感の強い学級である。しかし、話し合う活動については前向きに取り組める児童が多い。そこで、本単元において「互いの考えを大切にしながら、話し合いの技術や内容についても高め合う力」を付けさせたい。

(2) 学習材について（学習材観）

最高学年としての生活も半年が過ぎ、委員会やクラブ、たてわり班活動等でリーダーシップを発揮することにも慣れてきた頃である。また、卒業アルバムの撮影や文集等の作成も徐々に始まり、少しずつ卒業が意識できるようになり、児童らは「もっと五大小のためにできることをしたい」「残りの時間を在校生ともっと楽しく過ごしたい」「卒業前に感謝の気持ちを伝えたい」などの感情をもち始めている。

そこで、本単元では、「五大小を〇〇し隊！」という話題を設定した。学校や下学年のためにしたいことを話し合い、自分たちで決めたことを実践することで、最後まで粘り強く主体的に学ぶことができるようにする。

学校や下学年のためにやりたいことを実現させることは一人では難しく、友達との協力が不可欠であり、児童にとって話し合う必然性も出てくる。話し合う過程の中で、互いの考えを合わせたり、新しい考えを生み出したり、時には自分の考えとは違っても調整しながら意見をまとめていく場面が出てくる。「五大小を〇〇し隊！」という話題での話し合いを通して、互いの考えを求め合ったり互いのよさを発見し合ったりすることのよさを見出せるようにした。また、グループとしての話し合いの質の向上を実感したり、話し合っただけよかったという達成感や成就感も得たりできるようにした。

(3) 単元について（単元観）

本単元は、自分たちが学校のために何ができるかを考え、話し合い、実行に移してその達成感を得るという一連の流れに特徴がある。自分たちの学校に関わる話題を設定することで、相手意識・目的意識を明確化した。

単元を通して話し合いを複数回設定することで、個人やグループとしての学びの充実が図れるようにした。その際、毎時間の振り返りには ICT 機器を活用して、自身の課題に対する取組の成果を視覚的に捉えて変容を自覚できるようにした。

話し合いの「コツ（技能面）」について学ぶ場面では、児童が主体となって考えられるようにした。話し合いの定型を教師が示すが、そのまま活用するのではない。6年間の学習の積み重ねを振り返り、「話し合い」の技能を高めるために必要なことは何か、どうしたらお互いの考えや思いを伝え合えるかなど、既習事項と一人一人の経験を思い出し、自分たちに必要な「話し合いの仕方」を形成させていく。そうすることで、児童自身が自分・自分たちなりのめあてをもって話し合いに参加することができる考えた。

児童にとって取り組む意義のある単元を設定し、実際にやり遂げることで、「話し合っただけよかった」「取り組んでよかった」といった成就感や達成感を味わせるとともに、本単元で学んだ話し合いの基本や身に付けた力を生かして、残りの学校生活をさらに有意義に過ごしてほしい。

4 話すこと・聞くこと部で捉える「言葉による見方・考え方を働かせる」とは

話すこと・聞くこと部では、「話すこと・聞くこと」の学習における「言葉による見方・考え方を働かせること」を次のように捉えた。

言葉による見方とは、数ある言葉の中で、相手（対象）や目的、話題、聞き手に与える印象や聞き手の様子、話し手の意図や思いに即して使われた話し言葉の意味や働き、使い方に着目することと考えた。

言葉による考え方とは、聞き手の立場や思い、話し手の立場や思いに即して話し言葉の働きを捉え直したり、説得や推薦などの目的に応じてどのような言葉を使うとよいかを比較・吟味し、言葉の意味や働きを問い直したりすることと考えた。

これらの考えを踏まえて、どのような言葉を選び、どのような言い方で伝えれば相手に伝わるかを自覚化していくことが「言葉による見方・考え方を働かせること」であると捉えた。

5 研究主題に迫るために

(1) 児童が（本単元において）身に付けたい力を意識し、主体的に学習に取り組む。

最高学年としての自覚をもちながら、日々学校生活を過ごしている児童にとって、学校のためにできることを考えて実行することはやりがいがあることである。卒業を目前に控えた今、残りの学校生活を共に過ごしてきた下学年や学校のことを大切に思いながら生活したいと考える児童も多い。児童にとって話し合う意味のある話題を設定することで、主体的に学習に取り組めるようにした。

本単元では、身に付けたい力を意識する場面を二つ設定した。一つは、今までの自分たちの学びや身に付けている力を振り返り再確認することで、本単元における話し合いの仕方や付けたい力を児童自らが設定できるようにした。そうすることで、自分自身で目標を設定した上で話し合いに参加することができる考えた。もう一つは、話し合いの場面を複数回設定することで、自他の学びの充実を図れるようにした。毎時間、個人のめあてとグループのめあて、それに対する振り返りを行うようにする。ICT 機器を活用して、レーダーチャートを取り入れることで、前回の話し合いから自分や自分たちがどのように成長したのか、その変化や過程が可視化され、

次の学習のめあてを立てることに生かせるようにした。

- (2) 学習活動（言語活動）において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもつ。
（確かにする、広げる、高める、深める、などを含む）

【話し合いの進め方】

全員で「話し合い」の進め方に関する共通理解を図る時間を設ける。

- ①発表→全員が意見を述べる
- ②質問→各意見について、全員が確認的質問をし、共通理解を図る
- ③整理→各意見の意図や根拠について、共通点や相違点をまとめる
- ④吟味→各意見を一つずつまとめ、絞り込みや検討をする
- ⑤収束→合意事項を確認する
- ⑥確認→討論の結果（深まった点、対立が解けなかった点など）確認をする
- ⑦見直し→各自が自分の意見を見直す（個人作業・振り返り）

全体での確認の後、レーダーチャートの視点を決める。

出典：「合意形成能力を育む「話し合い」指導」 長谷浩也 重内秀介 著

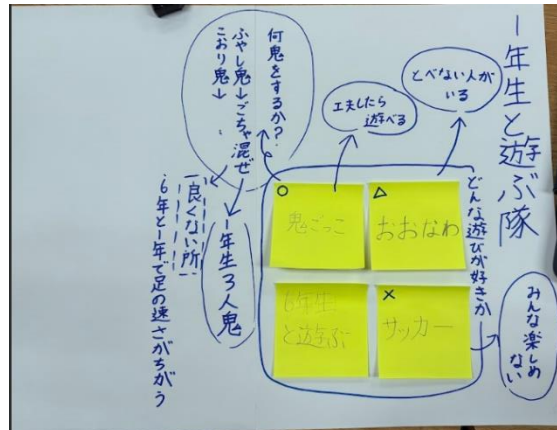
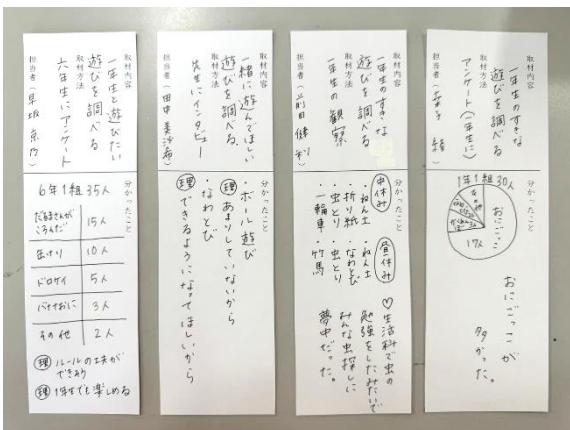
【話し合いの設定】

本単元では、これまでの学年で学習してきた話し合いの力を、より確かなものにしていくことを目指して「全体での確認→グループごとの話し合い①→グループごとの話し合い②→グループごとの話し合い③」というように、単元を通して複数回の話し合いの場を設定した。

<p>学級全体で、これまでにどんな話し合いの学習を積み重ねてきたのかを振り返る。 話し合いを成立するために必要な「コツ（技能面）」や「かまえ（態度面）」を確認する。</p>	
話し合い①	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが学校のためにどのようなことができるか、意見を出し合う。
話し合い②	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの思いや意見を、どのように具体化していくか話し合う。 「〇〇し隊」の相手が思っていることや願っていることを実現させるためには、より詳しく情報を集めることが大切であるかに気付かせる。
話し合い③	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの思いと、集めてきた情報や調査などで分かったことなどをつき合わせ、何を「〇〇し隊」がよいのか、これまでに話し合ってきたことを振り返り、整理しながら、グループとしての案を集束させていく。
<p>自分たちの提案を学級全体で共有する。 活動全体の振り返りをする。</p>	

【話し合いボード】

話し合い③では、自分たちの思いや考え、アンケートやインタビューで集めてきた情報などを書き込んだカードを作成し、机の上で整理操作しながら活動を進めさせる。また、情報を集めることで固まった自分の考えを付箋に書き出し、話し合いの中で共通点や相違点などが整理しやすいよう、貼る位置を変えながら、活動を進めさせる。（話し合いの可視化）



【モデル文】

A：司会者 条件：みんなが笑顔になるために。学校のためになるように。

		話合いのコツ
A	わたしたちは「1年生と楽しく遊び隊」だね。まずは取材してきたことをそれぞれ報告することにしようか。それをもとに、どんなことをするのか決めよう。 じゃあBさんからいいかな。	話すことの確認
B	わたしは1年生が休み時間どんな遊びをしているか聞いてみたよ。ほとんどの子が、鬼ごっこをしているし、鬼ごっこで遊びたいって。だから、どんな鬼ごっこをしているかも聞いてみた。「ふやし鬼」と「手つなぎ鬼」って言ってたよ。走り回ることが好きみたい。 だから私は「増やし鬼」がいいと思う！ ・・・・・・・・全員が取材してきたことを報告し合う・・・・・・・・	取材内容の報告 自分の考え
A	みんなが聞いてきたことを整理すると、 1年生は鬼ごっこをよく遊んでいて、走るのが好き。担任の先生は、できる遊びをふやしてほしいから、ボール遊びをしてほしい。あとは、得意な勉強を聞いたら体育は少ないから、運動があまり得意ではない子もいる。でも、体育は好きって子が多い。 どうしたらいいかなあ。	意見の整理
C	1年生が鬼ごっこが好きなら、鬼ごっこでいいんじゃない？ ルールも分かっているし、遊びやすいよね。	提案
D	でもさ、担任の先生はボール遊びをしてほしいってことだからさ。他の案を考えたほうがいいと思うんだけど。鬼ごっこはいつもしてるんだから、ドッジボールにしたらいいと思う。	反論
C	ぼく1年生のとき、3年生とドッジボールしたんだけど、強いボールを見ただけでこわかったよ。 1年生と6年生でドッジボールなんて無理だと思う。	反論
B	わたしも最初はドッジボールでもいいかと思ってたけど、取材したら、他の遊びの方がよさそうだったな。 どうやって決めたらいいかな。	困り感 相手意識
A	いろいろ意見が出たから、みんなの考えを整理しよう。話合いボードもあるし、決める条件に合った遊びにしたいよね。 1年生は鬼ごっこがしたい。先生はボールを使ってほしい。ドッジボールだと楽しめないかもしれないってことだね。 それから条件は、「みんなが笑顔になるため」「学校のためになるように」だから、1年生も先生も、自分たちも楽しく笑顔になるようにしたいね。それを意識して話し合いたいな。何か意見ある人いる？	意見の整理 話合いボードの確認 決定条件の確認
B	一緒にやっても楽しめて、1年生や担任の先生がしてほしいことができるようにしたいな。鬼ごっこもボールもできる遊びないかなあ。	相手意識 新しい提案
D	聞いていて思い出したんだけど、ぼく「ボール鬼」っていうのをやったことがあるよ。走ってタッチする代わりに、ボールを投げるの。	新しい提案 (2つの組み合わせ)
C	なるほど。それいいかも。やわらかいボールにして、6年生は下からしか投げちゃダメとかにしたらいんじゃない？	共感 提案へのつけ加え
A	それなら1年生のしてほしいことも、先生のしてほしいことも両方ともできるし、条件とも合いそう。Bさんはどう？	共感 他への促し
B	うん、とてもいいと思う。そうしよう。	共感
A	よし、じゃあ「ボール鬼」に決定だね。決まってよかった。じゃあ、このあとは、みんなが楽しめるようなルールや約束を話し合おう。	次に話し合う内容の整理・確認

【いくつかの意見をまとめる方法の提示】

意見を整理し終えたあと、児童が意見をまとめる際に参考になる資料として、以下を提示する。意見の収束について具体的な方法を示すことで、一方の意見に偏らず、互いの意見を尊重することができるようになると思う。

①目的に照らして、一方に決める

A+B→A 例：サッカー + おにごっこ → おにごっこ

(目的：1年生が楽しめる遊び)

②考えの理由やよさの共通点をまとめる

A+B→AB 例：じゃんけん + おにごっこ → じゃんけんおにごっこ

③それぞれのよさを合わせて新しいものを生み出す

A+B→C 例：手打ち野球 + サッカー → キックベース

(ベース型) (ボールを蹴る面白さ)

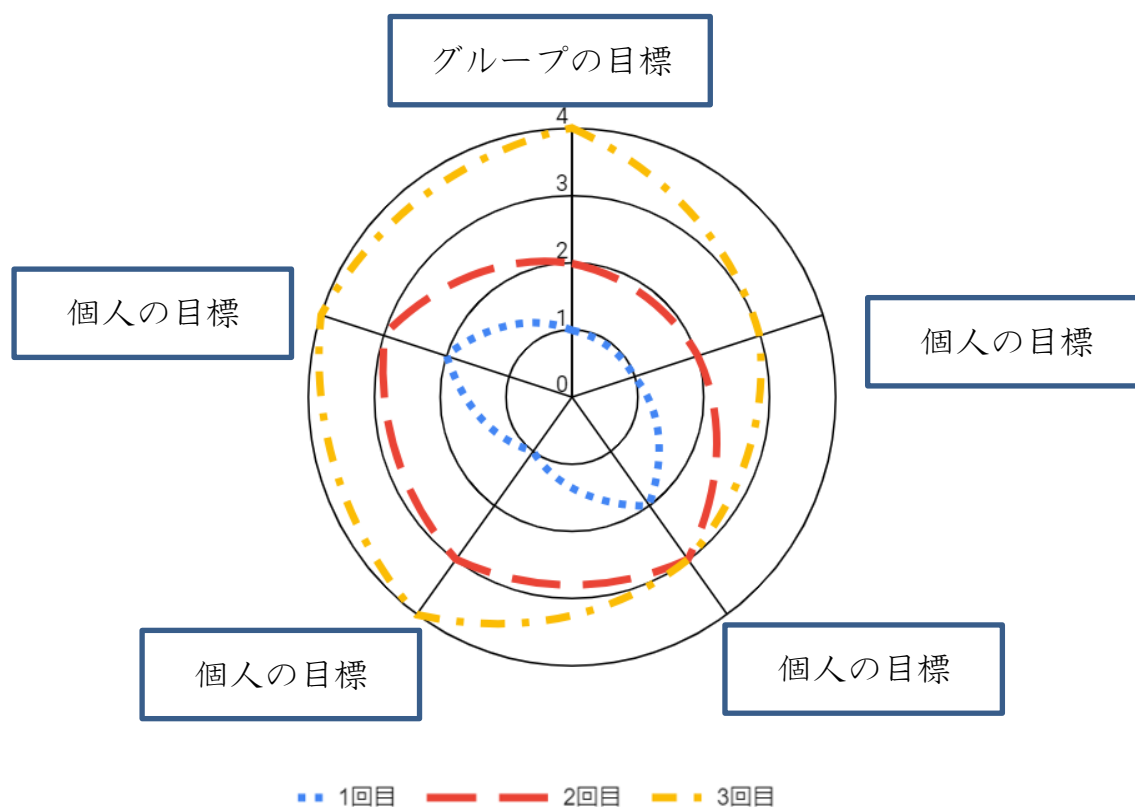
【レーダーチャートの作成と活用】

話し合いを振り返るためのレーダーチャートを用意し、自分たちの話し合いをよりよくするためのチェック項目は何かを考えさせる。活動ごとに振り返り時間を確保し、話し合いごとの自分の課題や成果を可視化できるようにすることで、次時の活動の課題も見付けやすくなると思う。

また、話し合いを数値化して振り返る際に、数値化の目安となるようルーブリックを作成した。

参考：『津田成一理論とその実践』

レーダーチャート



ルーブリック

	1	2	3	4
話し合いの進め方	話し合いの進め方を理解していた	目的に沿って計画的に話し合った	条件や計画を確認したり、必要に応じて修正したりした	話し合いの展開を理解して、整理しながら話し合うことができた
意見の伝え方	自分の意見を伝えた	自分から意見を伝えた	理由を入れて自分の意見を伝えた	根拠や経験を明らかにしながら自分の意見を伝えた
相手の意図・意見を比べる	相手の意見を聞いてどんなことが言いたいのか、考えることができた	相手の意見を聞いてどんなことが言いたいのか、理解することができた	相手の意見と自分の意見を比べながら聞いた	相手の意見と自分の意見を比べながら聞き、自分の意見をもった
意見をまとめる	意見をまとめるために、相手を意識して話し合えた	意見をまとめるために、目的を意識して話し合えた	意見をまとめるために、目的、条件を意識して話し合えた	意見をまとめるために、相手、目的、条件に照らし合わせながら話し合えた
互いの意見を尊重する	相手の意見を最後まで聞いた	相手の意見を受け止めた	意見の違いを認め、自分の考えに生かした	互いの意見を尊重し合い、よりよい考えを導き出した

(3) 獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

単元観でも触れたように、本単元は、自分たちが学校のために何ができるかを考え、話し合い、実行に移してその達成感を得るという一連の流れに特徴がある。自分たちの学校に関わる話題を設定することで、相手意識・目的意識が明確化され、グループによる話し合いがより活発になるのではないかと考えた。

この学習を通して、「互いの立場や意図を明確にして話し合う中で、話し合いのよさや高まりを自覚」できるように単元を計画している。学校のためにできることの計画実行は、一人では実現が難しいため、友達との話し合いと協力が必要になる。その話し合いを進めるためには、互いの考えを合わせたり、新しい考えを生み出したり、時には自分の考えとは違っても折り合いを付けたりする場面が出てくる。こうした「互いの立場や意図を明確に話し合う」活動の経験が、他教科や日常生活の中でも自信をもって相手を求めて関わる礎になるだろうと考える。

また、獲得した言葉の力を日常生活にも生かせるように設定した「話し合い①」「話し合い②」「話し合い③」の活動の繰り返しも、自分たちの「話し合いの仕方」が徐々に高まっていくことを実感でき、話し合う内容についてもより洗練・具体化していくことを実感できるのではないかと考える。

本単元の活動を通して得られる「話し合い」の力が、他教科のみならず日常生活の中でも生かされるよう、話し合うよさを大切にしながら、学習に取り組みせていきたい。

6 単元計画（全5時間）

過程(次)	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
第一次 題材の設定	1	<p>1 今までの学校生活を振り返り、出来事や気持ちを思い出しながら、学級で一つの年表にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が2年生のとき、縦割り班活動で6年生にお世話になった。 ・廊下が水浸しになったとき、主事さん方に助けってもらった。 <p>2 6年生として、学校のためにできることについて思いをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>五大小の〇〇し隊になって、学校のためにできることを話し合い、実行しよう。</p> </div> <p>3 学校のために、どのようなことができるか、意見を出し合い条件を整理する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">話し合いの条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 活動時間は15～20分 ② 準備に時間がかからないこと ③ 学校のためになるもの ④ みんなが笑顔になるもの </div> <p>4 学校のためにやりたいことが同じ人同士でグループを作る。</p>	<p>○人や場所など、様々な視点から意見を出し合えるようにする。</p> <p>○学習の目的を知ることで、関心をもつこと。</p> <p>○児童の立場からの思いや願いを出し合えるようにする。</p> <p>○グループの人数は3、4人とし、8～10のグループができるようにする。</p>	<p>〔主体的に学習に取り組む態度〕</p> <p><u>ワークシート・交流の様子</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に互いの立場や意図を明確にして伝え合い、考えを広げたりまとめたりしながら、学習の見通しをもち、相手の考えを大切に話し合おうとしているかの確認
第二次 情報の収集 内容の検討 話し合	2	<p>1 これまでの話し合いの経験を思い起こしながら、よいところや困っていることを話し合い、課題をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの意見は順番に聞き合うことができる。 ・自分の意見はすぐに譲ってしまう。 ・出た意見を一つにまとめるのが難しい。 <p>2 個人・グループ・学級の話し合いのめあてを設定し、レーダーチャートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見の整理ができるように、同じところや違うところをまとめられるようにする。 ・全員の意見を、理由を含めて最後まで聞けるようにする。 	<p>○話し合いの進め方や内容を振り返り、課題を見付けられるようにする。</p> <p>○教師の話し合いのモデルを視聴し、学習の見通しをもたせる。</p>	<p>〔知識・技能〕</p> <p><u>発言・交流の様子</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉と書き言葉との違いに気付いているかの確認

いの進め方の検討
考えの形成

	<p>3 グループごとに話し合い、自分たちが学校のためにどのようなことができるか、意見を出し合う。話し合い①</p> <p>4 話し合いを振り返り、ワークシートに記入する。</p>	<p>○様々な視点でなるべく多くの意見を出させる。</p>	
<p>3</p>	<p>1 前回話し合ったことをもとに、意見を比較していく。話し合い②</p> <p>2 話し合いを止め、誰にどのような取材や調査を行えばよいかグループで意見を出し合い計画を立てる。 ・1年生に、6年生にしてもらいたいことをアンケート調査する。 ・主事さん方に大変な仕事についてインタビューをして、お手伝いをしたい。 ・副校長先生に、学校の中で困っていることについて話を聞きたい。</p> <p>3 話し合い②をグループ、個人で振り返り、スプレッドシートに記入した上で、次回の見通しをもつ。振り返り、レーダーチャートに記入する。</p> <p>4 モデル動画を視聴し、話し合いのポイントについて確認する。</p>	<p>○取材の内容は複数用意するよう声をかけ、様々な角度から検証できるよう準備を進めさせる。</p>	<p>〔思考・判断・表現〕 <u>ワークシート・交流の様子</u> ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしているかの確認</p>
<p>課外</p>	<p>各グループで取材・調査を行う。</p>		
<p>4 本 時</p>	<p>1 前時にモデルで確認した話し合いのポイントを確認し、本時のめあてを確認する。話し合い③</p> <p>2 取材や調査をしたことをもとに、〇〇し隊の内容についてグループで話し合う。</p> <p>3 話し合いの進捗状況を確認し、まとめる話し合いの方法を知る。</p>	<p>○取材の結果をもとに、話し合うことをおさえる。</p> <p>○いくつかの意見をまとめる方法を提示する。</p>	<p>〔思考・判断・表現〕 <u>ワークシート・交流の様子</u> ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしているかの確認</p>
<p>①目的に照らして、一方に決める (A+B→A)</p> <p>②考えの理由やよさの共通点をまとめる (A+B→AB)</p> <p>③それぞれの良さを合わせて新しいものを生み出す (A+B→C)</p>			

		<p>4 グループごとに再度話し合い、〇〇し隊の内容を決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「1年生と勉強を楽しみ隊」1年生のアンケート調査の結果、算数が苦手な人が多かったので、算数が楽しくなるようなミニ授業をする。 ・「ピカピカ隊」主事さん方は、毎日の階段の清掃が大変だとおっしゃっていたので、6の2のみんなで掃除を手伝いたい。 <p>5 本時のめあてに沿って話し合いをグループ、個人で振り返り、スプレッドシートに記入した上で、次回の見直しをもつ。</p>	<p>○話し合いのモデルや話し合いボードを活用させながら、円滑な話し合いになるように促す。</p>	
<p>第三次 共有</p>	<p>5</p>	<p>1 自分たちの提案をまとめる。</p> <p>2 グループで話し合った内容を学級で共有する。</p> <p>3 今回の単元を通した話し合いについて振り返る。</p>	<p>○画用紙やプレゼンテーションソフトにまとめ、学級内で共有できるようにする。</p>	<p>〔思考・判断・表現〕 ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に互いの立場や意図を明確にして伝え合い、相手の考えを大切にしながら、考えを広げたりまとめたりして話し合った学習を振り返っているかの確認

7 本時の学習（4/5）

(1) 本時のねらい

取材や調査したことをもとに、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合うことができる。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
<p>1 前時にモデルで確認した話し合いのポイントを改めて確認し、本時のめあてや進め方を確かめる。</p>		
<p>取材や調査したことをもとに、互いの考えを大切に話し合おう。</p>		
<p style="text-align: center;">話し合いの条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 活動時間は15～20分 ② 準備に時間がかからないこと ③ 学校のためになるもの ④ みんなが笑顔になるもの 	<p style="text-align: center;">話し合いの進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 発表 ⑤ 収束 ② 質問 ⑥ 確認 ③ 整理 ⑦ 見直し ④ 吟味 	<p style="text-align: center;">〔言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿〕</p> <p>・よりよい話し合いを行うために、話し合いの進め方や内容に着目しながら、自分たちの話し合いを振り返り、改善しようとしている。</p>
<p>2 取材や調査をしたことをもとに、〇〇し隊の内容について整理しながら、グループで話し合う。</p>		<p style="text-align: center;">〔思考力・判断力・表現力①〕</p> <p style="text-align: center;">ワークシート・交流の様子</p> <p>・取材や調査をもとにした互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、〇〇し隊について考えを広げたりまとめたりしているかの確認</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の伝統を知ってもらいたいグループ ・1年生と交流（おしゃべり）をしたいグループ ・5年生と一緒に遊びたいグループ ・1年生に勉強を楽しんでもらいたいグループ ・全校でできる遊び（集会）をしたいグループ 		
<p>3 進捗状況を共有し、いくつかの意見をまとめる方法を知る。</p>	<p>〇いくつかの意見をまとめる方法を提示する。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ① 目的に照らして、一方に決める (A+B→A) ② 考えの理由やよさの共通点をまとめる (A+B→AB) ③ それぞれの良さを合わせて新しいものを生み出す (A+B→C) 		
<p>4 グループごとに再度話し合い、〇〇し隊の内容をまとめていく。</p>	<p>〇話し合いのモデルや話し合いボードを活用させながら、円滑な話し合いになるように促す。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・「1年生と勉強を楽しみ隊」1年生のアンケート調査の結果、算数が苦手な人が多かったので、算数が楽しくなるようなミニ授業をする。 		
<p>5 本時のめあてに沿って話し合いをグループ、個人で振り返り、スプレッドシートに記入した上で、次回の見通しをもつ。</p>		

